

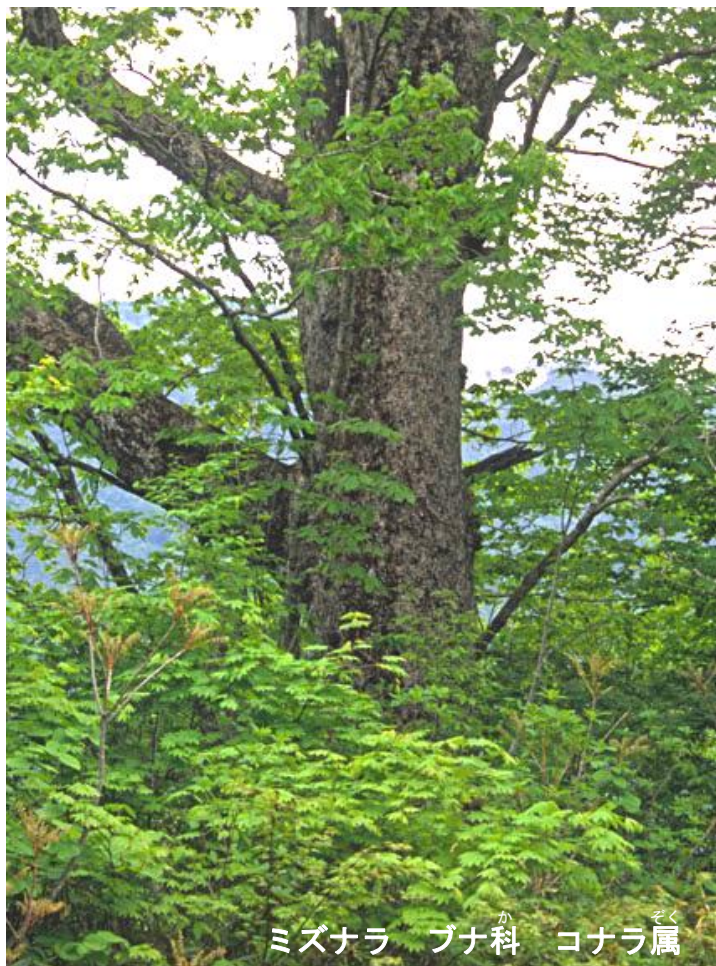
ミズナラ



みなさんはドングリがなる木を知っていますか？

実はドングリは、ブナ科の木の実をひとまとめにしたよび名です。

ドングリがみのる木は、コナラやクヌギ、カシワなどたくさんの種類があります。今回紹介するミズナラもドングリがなる木の一つです。



ミズナラ ブナ科 コナラ属

ミズナラ（水櫛）は、水分が多く、燃えにくいことから名前がつけられました。

大きな木になるのでオオナラ（大櫛）ともよばれます。

ミズナラは、大きな葉を冬に落とす落葉広葉樹です。

樹皮は、灰色がかった茶色で、たてに深い割れ目があります。

葉は縁にするどいギザギザがあり、枝先に集まってつきます。

日本じゅうでみられ、岩手県では、山や森の中（標高150m以上）にふつうに生えています。

太い枝を広げて大きくなり、高さ30m、直径1.7mになるものもあります。

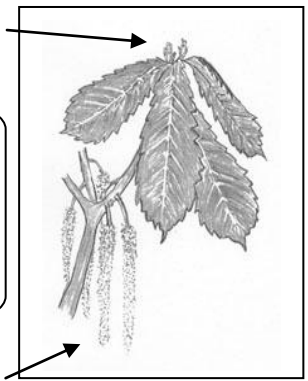
材木は木目がうつくしく、家具や建築などに利用されます。また、ビールやウィスキーなどの洋酒樽にも使われます。

成長がおそく、直径は一年間に平均2.5mmしかのびません。直径1mになるのに400年もかかることになります。



ミズナラの花はどんな花ですか？

ぼな
め花



ミズナラは、お花とめ花を春につけます。お花は黄色の小さな花で、たくさん集まって長い穂となり新しい枝にたれさがります。め花も小さな花で、枝先に1~3個花をつけます。どちらも花びらのない花です。



実ができるまでを教えてください。

ぼな
お花

風がふくと、お花の花粉はあちこちに飛んでゆき、め花につきます。夏になると、め花があったところにドングリのぼうし（殻斗）になる部分が生まれ、ぼうしの中から緑色の実が顔をだします。実はどんどん大きくなり、秋になると、茶色に色づいてじゅくします。そして枝からはなれて落ちていきます。



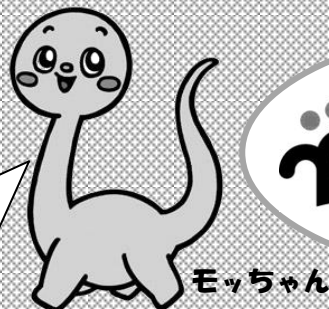
ミズナラのドングリはどんな形ですか？

ミズナラのドングリはたまご形で、ぼうし（殻斗）はおわんのような形に、うろこのような模様があります。栄養たっぷりのドングリは、ネズミやリス、カケスなど、森の動物たちのごちそうです。リスなどは土の中などにかくして、冬のためにとっておきます。落ち葉の下や土の中にうめられたドングリは、土に根をのばして寒い冬をすごします。そして、春がくると根の横から小さな芽をだします。この小さな芽がやがて大きな木に成長していきます。



参考にした本 『岩手の樹木 百科』 岩手日報社 1993年 / 『どんぐりの図鑑』 トンボ出版 2004年
『図説日本の樹木』 朝倉書店 2012年 他

来月（12月）の
けんぱくものしりシートは
体験学習室-9だよ！
おたのしみに！



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>